

めたてまつりて、世中におはしける人まいらぬなく参りこみ、よろづの物をぞたてまつりける、たゞみかど、春宮宮々ぞみおはしまさゞりける、この牛ぼとけなにとなく心ちなやましげにおはしければ、とくうせ給べきとて、かく人まいりこみて、このひじりは忍いさうをか、むとていそぎけり、かゝる程に、にしの京に、いとたうとくおこなふひじりのゆめにみえたるかせう佛だうにねはんのだんなり、ちさたうとくけちえんせよとぞみえたりければいと、人々まゐりこむ人もあり、いづみ、

き、しよりうしにこゝろをかけながらまたこそこえねあふさかのせき、人々あまたきこゆれど、おなじ事なればか、ず、日ごろこの御かたか、せて、六月[○]萬壽二年、二日ぞ御まなこいれんとしける程に、その日になりて、この御堂を此牛みめぐりありきて、もとの所にかへりきて、やがてしにけり、これあはれにめでたきことなりかし、御かたに眼いれけるをりぞはて給にける、ひじりいみじくなきて、やがてそこにうづみて念佛して、七日々々に經佛供養しけり、後にこのかきし御かたを、内[○]條[○]後にも宮門[○]上東院にもおがませ給ける、かゝることこそありけれ、まことのかせう佛、このおなじ日ぞかくれ給ける、いまは此寺の彌勒供養せられ給、この聖もいそぎけり、草をたれもたれもととりてまいりける中に、まいらぬ人などありければ、それは罪ふかきにやなどぞさだめける、

〔古今著聞集^{二十}魚虫^{禽獸}〕近江國高島郡に、平等院河上庄といふ所に、武藏阿闍梨勝覺といふ僧あり、くだんの勝覺が父家にかひける牛、夜毎に必うめく事侍けり、其うめきごゑたゞにあらで、物を云やうに聞えければ、人あやしみて耳をたて、聞ければ阿彌陀經になんき、なしてけり、若ひが聞かど、人をかへてきかするに、皆同じさまにきく、うめきはじむるよりこゑをあはせてあみだ經をよむに、首尾あひかなひてはてけり、必夜に一度かくうめきける、先生のあみだ經の持者